

1978年に日中平和友好条約が締結されて以来、  
 JICAでは日中国民間の相互理解を促進するために、  
 中国の国づくりを担う若手行政官をはじめ、  
 研究者、技術者、医療従事者など、  
 中国全土から選抜された人材を日本に招へいし、  
 専門領域における多彩な研修を実施してきました。  
 日中の友好関係を深め、  
 中国の経済発展や社会体制の基盤整備を支援してきた  
 その軌跡をご紹介します。

1978年～2011年度の**34年間**で、  
 延べ**2万人以上**の中国人研修員を  
 受け入れ。

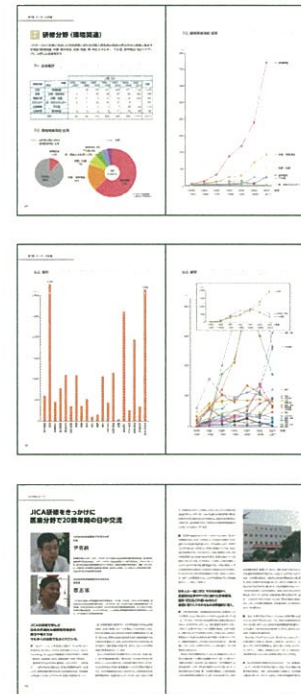
「日中青年の友情計画」等に基づく  
 「青年研修(旧:青年招へい)事業」では  
**毎年、約200人**の中国青年指導者が  
 日本で研修に参加。

日中友好のシンボル、  
**「中日友好病院」**が1984年に設立。  
 技術協力による人材育成事業を展開。

## 報告書

# 『研修員受入事業の振り返り —対中国協力 開始から現在まで—』発行

1978～2011年度の34年にわたる  
 訪日中国人研修員延べ約2万人の名簿データを集計し、  
 分析した報告書を2013年3月に発行しました。  
 研修員やJICA研修監理員へのインタビューも収録しています。  
 ご覧になりたい方は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。



### 独立行政法人 国際協力機構(JICA)

〒102-8012 東京都千代田区二番町5-25 二番町センタービル  
 TEL.03-5226-6683 (東・中央アジア部 東アジア課)

<http://www.jica.go.jp/>

2013年3月



# 研修員受入事業の 振り返り

—対中国協力 開始から現在まで—



# 中国全土から 2万人以上が来日



1978年度のJICAによる中国人研修員の受け入れ開始以来、その人数は年々増加し、2011年度までの延べ人数は2万人を超えています。

## 研修例

### ● 青年研修(旧:青年招へい)

対象国の国づくりを担う青年たちを専門分野別のグループ単位で日本に招き、専門分野別の研修や日本の同世代の青年との交流を通じて、各分野の知識を深め、両国の相互理解や友情と信頼を培うことを目的とした事業。

### ● カウンターパート研修

カウンターパート(開発途上国において実施している専門家派遣、技術協力プロジェクトなどの事業において、技術移転や政策アドバイスの対象となる相手国行政官や技術者)を研修員として受け入れる事業。

### ● 課題別研修

日本側で開発途上国側の課題を想定して研修計画を策定し、提案する形態の研修。

### ● 地域別研修

課題別研修の一つで、特定の地域を対象として実施する研修。

### ● 人材育成支援無償

対象国で将来、指導者となることが期待される若手行政官などを日本の大学に留学生として受け入れる事業。

### ● 国別研修

対象国の政府の個別要請に基づき、一定人数の研修員を対象に実施される研修。

## 日中の交流を深める 「青年研修(旧:青年招へい)事業」

1986年、中曽根康弘首相(当時)訪中の際、日中の青年交流を通じて相互理解を深め、信頼と友情を築くことを目的に、胡耀邦総書記(当時)との間で合意された事業で、1987年から毎年、多くの中国青年指導者が日本に招へいされています。



2010年11月に行った日本での視察の様子。



2011年12月に実施された交流体験の様子。

## 「中日友好病院」設立と人材育成

中日友好病院は、中国で初めての無償資金協力事業として建設された病院で、1984年に完成しました。病院施設の建設と平行して、1981年から技術協力による人材育成を始め、2012年度までに延べ318人が日本で研修を受け、日本からは専門家158人、青年海外協力隊員16人が派遣されました。



北京市にある先進医療機関、中日友好病院。中国と日本の友好の証。



2003年5月、新型肺炎(SARS)への対策として防護服を供与し、専門家が使い方を指導。

## JICA研修員同窓会による無料問診活動

JICAの支援により日本で研修を受けた医師たちが、帰国後に立ち上げた医学研修員同窓会は、2006年10月に北京市郊外の農村地域で最初の活動を開始して以来、中国各地で無料問診活動を行っています。2009年、四川地震被災地で行った無料問診活動には、多くの被災者が受診に訪れました。



2012年4月、雲南省玉溪市で行った無料問診活動では約300人の患者を診察。



2009年2月末～3月初めに四川大地震の被災地で行った無料問診活動では799人を診察。